

かしわざき岬めぐり

柏崎には、観音岬、番神岬など7つの岬があります。
岬を巡って、岬カードとスタンプをコレクションするイベント
「かしわざき岬めぐり」が好評開催中!(10月27日(日)まで)
日本初の岬カードを手に入れよう!

市町村紹介コーナー

柏崎市

[中越エリア]

CONTENTS

|特集| 02 市町村紹介コーナー 柏崎市 04 発注者支援事業紹介 05 「研究助成事業」募集のご案内、Made in 新潟 新技術展示・発表会
06 ものづくり体験学習教室 |センターINDEX| 07 雪のことば・雪のころ 08 編集後記



一般財団法人 **新潟県建設技術センター** <http://www.niigata-ctc.or.jp/>

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18 TEL.025-267-4804 FAX.025-267-4854 ☎0120-733-308

08 新潟の地酒巡り

原酒造

いい酒には、
いい故郷(ふるさと)がある





柏崎市

柏崎

Kashiwazaki



柏崎市のプロフィール(令和元年5月末時点)

面積 / 442.03km²
(平成26年10月1日時点の面積、平成27年3月6日国土地理院公表)
 人口 / 83,478人
 世帯数 / 34,928世帯

「海の柏崎」 夏だけじゃない、海の楽しみ方

柏崎は「海の街」として、県外から多くの海水浴客が訪れます。そんな柏崎の海の魅力は、夏だけでなく1年を通して感じることができます。柏崎の海岸線には、日本海の荒波によって作り出された不思議な形の岩や洞窟が連続し、日本海の澄んだ青と相まって美しい景色が広がります。この風光明媚な海岸線は、佐渡弥彦米山国定公園に含まれており、季節によりさまざまな表情を見せてくれます。岬からの絶景は圧巻です。



TOPICS

自治体広報誌「広報かしわざき」で「建設業」をPR!

柏崎市の自治体広報誌「広報かしわざき」8月号で、建設業の現場で働く若手職員を取材し紹介しました。



詳細はこちら!



かしわざき岬めぐり開催中!

柏崎には、観音岬、番神岬など7つの岬があります。「かしわざき岬めぐり」は、岬を巡って絶景を写真におさめ、岬カードとスタンプをコレクションするイベントです。10月27日(日)まで好評開催中!

How to

かしわざき岬めぐり

- 1 柏崎ファンクラブに入会。入会済みの会員はOK
- 2 岬マップを手に入れ、岬を見に行き、絶景を満喫!撮影ポイントで写真撮影
- 3 岬カード配布場所に行き、岬マップにスタンプを押してもらい、岬カードをゲット!
- 4 スタンプをコンプリートしたら、岬カード配布場所で、岬マップを提示
- 5 プレミアム岬カード「松ヶ崎」をゲット!

詳しくは「柏崎シティセールス」のHPをご覧ください。



観音岬



番神岬



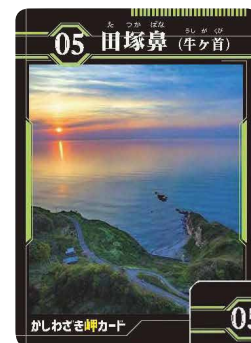
御野立



鷗ヶ鼻 (恋人岬)



田塚鼻 (牛ヶ首)



聖ヶ鼻



松ヶ崎



岬カード

What is

柏崎ファンクラブ

柏崎ファンクラブは、柏崎を大好きな人たちが、楽しみながら柏崎の魅力を発信することで、柏崎を盛り上げていく試みとして、平成28年10月にスタートしました。日本全国に会員の輪が広がり、現在約7,000人の会員がいます。岬めぐりの他にも、首都圏交流イベント開催やメルマガ配信、ファンクラブ通信(冊子)も発行しています。柏崎ファンクラブに入会して、一緒に楽しみましょう!

柏崎ファンクラブ
入会はこちら!



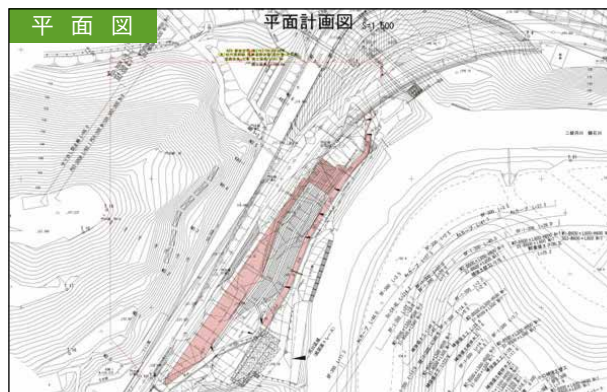
発注者支援事業紹介



(主) 松代高柳線 県単道路改築(交付金・ゼロ県) 道路改良 工事

工事概要

主要地方道松代高柳線は、十日町市松代と柏崎市高柳町岡野町を結ぶ中山間地の拠点地域を結ぶ重要な道路として位置づけられています。
本工事は、電源立地地域対策交付金等で道路整備を進めている道路改良工事です。



工事内容



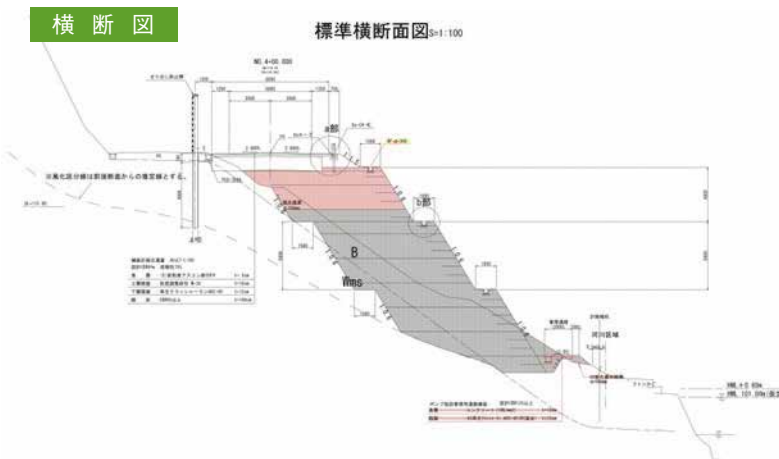
工事名
平成29年度 単改交零 第2163-00-00-01号
(主) 松代高柳線 県単道路改築(交付金・ゼロ県) 道路改良工事

工期
平成30年3月～令和元年6月

発注者
新潟県 柏崎地域整備局 地域整備部 道路課

工事内容
盛土工 2,480㎡ 補強土壁工 251㎡

横断図



立会状況



竣工



管理技術者 から一言



管理技術者 阪口 敦

当工事は、補強盛土工により現況幅員5.0mから6.0m(2車線)に道路を整備する工事でした。現地から発生した土砂をセメント改良し、盛土材として使用しており、盛土箇所によりセメント添加量が異なるため盛土材の品質確認を重点的に行いました。
検査時にも補強材に沈下など認められず竣工を迎えることが出来ました。
今後も、発注者支援業務を通して地域の安全・安心の確保と地域社会の発展に寄与していきたいと思います。

「研究助成事業」募集のご案内

新潟県が抱える地域特有の課題解決を図ることや地域活性化に資することなどを目的として、様々な調査研究、活動を行っている研究者及び団体等を支援する「研究助成事業」を実施しています。

当センターでは、この事業を通じて私たちが暮らす新潟県が実りある未来を実現するために「地域社会の安全・安心」と「地域社会の健全な発展」をキーワードに今後も幅広く地域に貢献していきたいと考えています。

今年度も令和元年11月15日(金)から令和2年1月31日(金)まで募集を行っていますので、奮ってご応募下さい。



募集要項等の詳細は、
当センターホームページをご覧ください。

<http://www.niigata-ctc.or.jp/kyoryoku/jyoseijigyuu.html>



実績(平成30年度募集、令和元年度助成) ※50音順

調査研究

●(特非)ただの里

・八十里越歴史の道調査研究及びルート整備事業

●長岡技術科学大学

・微弱打撃により取得した加速度応答データを援用した検査場所非依存型の空洞位置同定解手法の構築に関する事業
・新潟県沿岸地域全域を対象とした飛来塩分の定量評価技術の開発に関する事業
・新潟県における規格外アスファルト再生骨材の有効利用技術に関する事業
・コンパクト・プラス・ネットワーク型都市形成を目指す都市計画制度と連携した雪対策事業の検討

●長岡工業高等専門学校

・腐食損傷部材への高耐久性材料活用による高機能鋼橋の設計法の提案に関する事業

●(一社)新潟県コンクリートメンテナンス研究会

・新潟県におけるコンクリート構造物の品質確保と技術伝承を目的とした施工プロセスの実験的検討およびPDCAサイクル構築を推進する事業

●新潟工科大学

・沿岸部における砂粒子の飛散・堆積の数値シミュレーションによる予測と対策
・雪国の防災・減災を目指した屋根雪荷重のリアルタイム診断技術に関する技術

●新潟大学

・弾性波計測によるコンクリート構造物の損傷度診断法の開発～弾性波を用いた圧縮強度試験の高度化によるコンクリート損傷度診断～
・実構造物におけるコンクリートの品質の空間変動が耐久性評価に及ぼす影響に関する研究
・三面川再生にむけたステークホルダー・インタレスト分析と魚類に着目した河川環境再生法の検討(3年計画-3年次)

●(特非)新潟水辺の会

・鳥屋野潟浮きテラス島での環境資源利用に関する実験

今年度はこれらの取り組みを支援しています!

活動

●佐渡ジオパーク推進協議会

・ジオサイト活用に伴う教育環境の整備に関する事業(継続2年次)

●長岡工業高等専門学校 教育研究技術センター

・「ミニチュア土木工事現場体験会」と「VR建設業体験会」開催に関する活動(継続3年次)

●雪崩講習会実行委員会

・雪崩講習会の開催に関する活動(3年計画-2年次)

●にいがた土木女子(NDJ)会議

・建設業のイメージアップ、女性活躍に関する調査・研究事業(継続3年次)



Made in 新潟 新技術 展示・発表会

「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」に登録されている、新潟県内の企業が開発した土木・建設分野の新技術について、その活用事例や実物の展示・発表会を行います。

詳しくは、Made in 新潟 ホームページ

<http://www.shingijutu-niigata.jp/>

でご参照下さい。

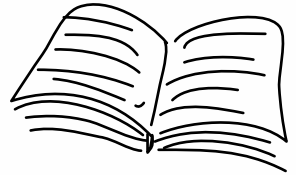
開催日 11月12日(火)

会場 朱鷺メッセ メインホール



令和元年度
第3回
クリエイティブ
セミナーも
同時開催予定

ものづくり体験学習教室



新潟県建設技術センターでは公益事業の一環として「ものづくり体験学習教室」に取り組んでいます。これは、地域社会の振興発展のため、未来の技術者に以下の3項目を目指した普及教育活動を実施しています。

その1

コンクリートを身近に感じ、社会基盤整備への理解と関心を深めてもらう。

その2

コンクリートに関する科学的な事象の体験を通じ、理化学分野に興味を持ってもらう。

その3

ものづくりの体験を、将来、技術者への進路につなげてもらう。

今回は、平成30年度に実施した「夏休み親子ものづくり体験学習教室」の開催内容をご紹介します。

開催概要

- ◎日時:平成30年8月24日(金)
13:00~15:30(150分間)
- ◎場所:阿賀野市 五頭連峰少年自然の家
- ◎対象:阿賀野市内3~6年生 児童(21名)
保護者・教職員の皆さん



開催内容(3本立て)



1

クイズでわかる!コンクリートのふしぎ

クイズ6問を通じて、コンクリートの特徴を学びました。また、皆さんの暮らしの中でも、コンクリートがとても役に立っていることを知りました。

クイズ形式でコンクリートの特徴を面白く楽しく学びます。



2

ペーパーウエイトをつくってみよう!

ペーパーウエイト作りです。型から外して色を塗っています。みんな真剣です。

セメントと水を練り混ぜ、動物や魚の型に流し込み、コンクリート製のペーパーウエイトを作ります。最後に絵の具で着色して仕上げました。



3

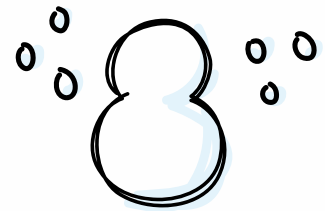
コンクリートで作った石橋(アーチ橋)を渡ってみよう!

コンクリート製のブロックを、自分たちで考えながら組み合わせて、アーチ橋を作ります。完成したら歩いて渡ってみますが、接着剤などを使っていないのに崩れないのは不思議です。

コンクリートがとても丈夫なことがわかります。



雪のことは・雪のころ



過去の大雪の記録(その2) 38豪雪

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

昭和38年の豪雪は記録に残っている雪害では最も被害の大きかった大雪です。全国で死者・不明者231名、負傷者356名、住家被害(全半壊)1,735棟(警察庁調べ)の被害をもたらしました。被害を受けた地域は北陸地方を中心に、山陰、山形県、滋賀県、岐阜県などの日本海側で、特に新潟県中越地方北部や福井県などは雪の量も多く、大きな被害となりました。長期間にわたり鉄道の運休や都市間道路交通の不通が発生し、山間部の孤立集落が続出しました。さらに、食糧などの生活物資の不足や物価高などの二次的被害も広く、長期的に発生しました。

長岡市では昭和38年1月11日後半から雪が激しく降り始め、特に23日から28日にかけては大量の降雪となり、現在も観測記録として1位の318cmを1月30日に記録しました(図1)。

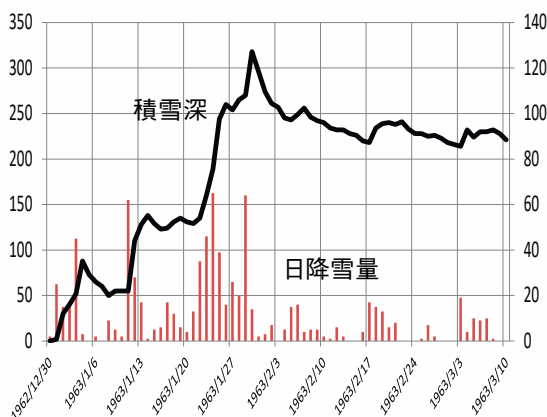


図1 積雪深と日降雪量(気象庁長岡観測点)

38豪雪は里雪型であったことから、都市部での被害が多く、長岡市内でも大変な雪の量となり、まだ除雪機械が普及していなかったため、市民総出の雪処理が行われました。長岡駅前でも大量の雪が町全体を埋めつくす様子が記録されています(写真1、2、3)。

当時は、主要な交通・輸送手段が鉄道から道路に転換する時期であり、38豪雪後は消雪パイプの普及や除雪機械の新たな開発など、その後の雪対策に大きな変革をもたらしました。

38豪雪から50年以上経過しており、その教訓を活かし、今後の雪対策を進めるうえでも今まさにその記録を残しておくことが重要だと感じています。



写真1 市民総出の雪処理(長岡市)



写真2 ダンプによる排雪(長岡市)



写真3 雪下ろし直後の殿町通り(長岡市)
(写真はいずれも長岡市高鳥一男氏撮影)

特集

vol.11

新潟の地酒巡り

全国的にも評価が高い新潟の清酒。
そのおいしさの秘密を紹介します。

柏崎市の酒蔵

原酒造

“幸せを呼ぶ酒造り”

原家 四代当主 原吉郎は「この世に絶対に必要な物が日本酒だ。苦しいときに心を慰めてくれるのは日本酒である。喜びを大きくしてくれるのも日本酒である。自分は魂を込めて“幸せを呼ぶ酒を造ろう。”」この言葉が、越の誉の基本理念です。



代表取締役社長
原 吉隆



いい酒には、いい故郷(ふるさと)がある

日本海を見下ろしてそびえ立つ名峰「米山」は、日本三大薬師のひとつである米山薬師堂があり、古来より稲作の神として信仰されてきました。原酒造の仕込水は、この米山の伏流水を使用しています。水質は軟水で、出来るお酒は非常になめらかです。原料米は、米山近郊の篤農家の契約栽培米です。そして酒造りの善し悪しは精米技術で決まります。原酒造では米の全量を高品質な自社精米で行っています。酒造りでは古くから【一麴(こうじ) 二酛(もと) 三造り】という言葉があります。これは酒造りにおいての大切な工程を言ったもので、中でも一麴といわれるほど、麴を造る工程が一番重要なものです。原酒造の造りの大きな特徴は、この麴を造る室(むろ)が、天幕式麴室、大吟醸用麴室の二室があり、酒種に対応しそれぞれの室を丁寧に使い分けていることです。そのため酒質に最適な麴をじっくりと時間をかけて造ることが出来、しっかりとした芯のある酒に仕上がります。清冽な仕込水、良質の米、状態の良い麴が合わさって酒のもろみ醗酵の工程に入ります。原酒造のもろみ醗酵は特定名称酒のすべてを管理の十分に行き届く仕込み方法で造ります。その仕込に使用しているタンクはサーマルタンクといって二重構造のステンレス製タンクであり、コンピューター制御による品温管理が徹底されています。

酒は麴菌や酵母菌などの生き物が造るもの。刻一刻とその様子は変化していきます。酵母の醗酵過程で出る泡の状態や音、香りを感じ、あくまで蔵人の五感を一番の指標とし醗酵管理をしています。大吟醸造りとなるとより細やかに1/10℃単位での精密な品温管理をしていきます。その醗酵管理は一ヵ月間に及び、研ぎ澄ませた感覚、経験と受け継がれてきた伝統の技が一体となり、日本酒の最高峰「大吟醸酒」は醸されているのです。

脈々と伝承されてきた伝統と酒造りの技、それに革新し続ける最新の技術を重ね「越の誉」は造られています。



1.越の誉「大吟醸原酒/越神楽」地元で収穫した当蔵オリジナルの酒米「越神楽」を使用して仕込んでいます。精米歩合40%まで磨きあげ、酒造工程はすべて手造りでバナナや洋ナシ系の華やかな吟醸香と上品で洗練されたまろやかな味わいが特徴です。2.越の誉「銀の翼/特別本醸造」冴えた味わい、ほのかな香りのスッキリした辛口酒。丹念に醸した柏崎地区限定販売酒。3.越の誉「発泡性純米酒 あわっしゅ」あわっしゅは低アルコール日本酒を瓶内二次発酵させ、酵母の生み出す天然の炭酸ガスを閉じ込めたお酒です。はじけるような強くきめ細かい天然の泡が立ち上がり、和製シャンパンを思わせます。



原酒造株式会社
〒945-0056
新潟県柏崎市新橋5-12
TEL.0257-23-6221
FAX.0257-20-1032
<http://www.harashuzou.com>

編集後記

6月18日に山形県沖を震源とする「山形県沖地震」が発生し、新潟県村上市で震度6強、山形県鶴岡市で震度6弱の激しい揺れが観測されました。甚大な被害に遭われた地区の皆様の一日も早い復興を心よりお祈りしています。

また、今年の夏も連日の猛暑日で体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。当センター職員一同、体調管理に留意し、より一層「信用・信頼」をモットーに、豊かな住みよい国土の建設に貢献すべく取り組んでまいります。

編集委員 試験部 石附 寛成